



いよし国際交流の翼 フィリピン・マニラの旅

市民の皆さんに、海外の文化に接し、現地の方との交流を通して、国際的な感覚を養ってもらおうと、11月16日から19日までの4日間、「いよし国際交流の翼」を実施し、参加者17人がフィリピン・マニラを訪問しました。

7,000を超える島々から構成されているフィリピンは、その島の数だけ伝統や文化も多彩です。スペイン、アメリカ統治時代の面影を色濃く残し、日常生活の中でもそれぞれを象徴する建築物や食べ物などが多く見られます。

「東洋の真珠」ともいわれる首都マニラは、国際的な大都会としての顔と、40年以上にわたる歴史の街としての顔を併せ持っています。近年、急速な経済成長を続けており、日本との間にも、活発な貿易・投資・経済協力関係が築かれています。

まぶしい太陽と、人々の明るい笑顔が輝くマニラでの4日間。参加者を待っていたのは「国際交流」の旅ならではの温かい人とのふれあいでした。今回は、その旅の軌跡を紹介いたします。



マニラ訪問のたび

学校視察

武田 弘さん(米湊)



早朝6時の出発はちよつと厳しいものがありました。その日の13時過ぎには目的地であるマニラに着いていました(時差は1時間)。すぐ市内観光をし、そして世界三大夕日の一つといわれているマニラ湾の夕日を見ました。大きな船のシルエットの向こうに、赤く沈む夕日は壮大で引き込まれていくように感じました。と同時に、瀬戸内海に沈む夕日も決して劣ってはいないと思いました。

翌日、ドナ・ジユナ小学校を訪問しました。児童数約7,000人(一部制120クラス、先生は145人、そして知的障害・聴覚障害それぞれのクラスもある公立の大規模校ということでした。

歓迎会。障害のある子どもたちとその家族、関係の教職員など100人くらいが、中央の広場で歓迎をしてくれました。きれいに飾られたステー

ジの「WELCOME:」の大きな文字がとても印象的でした。

お互いのあいさつがあつてから一人の児童が先生に背中を押されるようにステージに立ち、歓迎の「さくらさくら」を熱唱してくれました。美しく澄み切った声、正確な日本語、それはすばらしく、訪問者だけでなく参加者全員が感動していたように思いました。

続いて子どもたちの寸劇・桜の苗木を一生懸命世話して立派に育てる…というもの。障害のある子どもたちが懸命に演じている姿に胸を打られました。そしてこの劇は、子どもたちの成長とこの町の発展を重ね合わせているように思いました。

ステージの前に置かれたプレゼントを見ているどの顔もうれしさでいっぱいでしたが、ふくらませた紙ふうせんを追う姿には、好奇心だけでなく素直で純粋な心を見ることができました。

廊下を歩きながらの視察・参観ではどの児童も明るくひたむきに学んでいました。そして私たちを見る目の輝きは、この国の若さと未来の明るさを象徴しているようでした。

一方、学習環境は決して恵まれていません。狭く暗く、そして暑い教室。60人もの児童が二人掛けの小さな机で学んでいましたが、児童の様子からは、力強いエネルギーとこの国の明るい未来を強く感じました。

そのほか日程に従っていくつかの

施設等を視察しました。そして景勝地・タール湖で目の保養をし、大学生との楽しい交流会を最後に、36℃のマニラを後にしました。

この「いよし国際交流の翼」は、すぐにその成果が見られるような事業ではなく、将来必ず花を咲かせるであろう「草の根」的な国際交流であると考えます。そして、できれば訪問先や日程も含めて見直し、多くの若い方が参加すれば、もっともっと大きな成果が期待できるのではないかと考えます。



▲手づくりの心温まる歓迎会で、訪問団を出迎えてくれました。

◀小学校の中庭に記念植樹を行いました。





ロザリオの聖母修道院表敬訪問

マニラ市内にあるロザリオの聖母修道院には、戦後45年もの長きにわたり、松山や京都で日本の子女教育に尽力したシスターイノセンシアさんがいます。今回の旅で、当時シスターから指導を受けた参加者との20年ぶりの対面が実現しました。

また、シスターの経営する孤児院、サンタマリーナ大村ホームへ、日本から古着や文具などを届けました。



外国向け介護士養成学校訪問

外国向け介護士養成学校(IDPSI)では、幅広い年代の学生が介護について学んでおり、卒業後はロンドンやオーストラリアなどで就労しています。

学生たちの学びに対する思いは真剣そのもので、お年寄りを大切に思う心や、外国で働きたいという熱意を感じました。



モンテンプル観光・慰霊

マニラ市内から南へ40分に位置するモンテンプル・ニュービリビット刑務所は第二次世界大戦後、日本人捕虜収容所として使われ、現在は刑務所として利用されています。敷地内の一角には日本人記念墓地、平和観音像、平和記念塔などが建てられており、参加者は平和への願いを込めて、日本人記念墓地へ献花を行いました。



日本語を学ぶ大学生との交流

日本語を学ぶ、ラサール大学の学生16人を招待しての交流会が開かれました。お互いの国の文化や習慣、将来の夢などについて意見交換を行ったり、日本語の歌を全員で歌ったりと、国籍・世代を超えた交流が行われました。